

地域連携支援部

地域連携支援部は保健・医療・高齢者福祉事業の積極的な推進を目指し、院内外の関係機関との連携強化に努めています。「患者サポート室」「訪問看護ステーション柏崎」「柏崎総合医療センター居宅介護支援事業所」及び柏崎市からの委託による「柏崎市中地域包括支援センター」を加え4部門で構成され、各専門職が多機関・多職種との連携を図っています。また、令和4年4月より入院支援センターが「患者サポート室」の業務の一部となり、幅広く療養者への支援を担っています。

【主な業務】

1. 地域連携活動 : 関係機関との顔の見える関係作り、連携の構築・維持
2. 近隣開業医やケアマネ、施設職員との勉強会及び意見交換会の開催
3. 地域連携に関するデータ分析：紹介・逆紹介、地域連携に関するデータの蓄積
4. 院内受入体制の整備：患者受け入れに関する協力依頼・紹介、逆紹介の管理
5. 広報活動の充実 : 病診だよりの発行
6. 定期的な院内連携会議の実施：地域連携支援部定例会議（年4回）
7. 地域に出て行く活動：JAや行政を含めた地域連携の構築
8. その他、地域連携強化に関する業務

コロナ禍を経て、これまで書面またはオンライン開催を余儀なくされていた情報交換会や、各種連携会議、学習会等が対面でできる機会が増えてきました。各担当者の方々と顔を合わせた意見交換に改めて有意義さを感じ、今後への取り組みにも力が入りました。超高齢社会を背景に、意思決定支援・医療同意・身寄りなし問題など大きな課題に対し、引き続き多機関多職種で連携を強化して取り組んでいきます。

メディコラ学習会では、第1回目はハイブリット方式、第2回目は対面で開催しました。リピーターをはじめ、地域の多機関多職種の皆さまよりご参加いただきました。連携・情報発信を通して地域に貢献できる学習会として、継続して企画していきます。

広報誌「つながる+（プラス）」には、より強固なつながり（連携）を築いていきたいという思いが込められています。院内のトピックスを掲載し、地域に発信していきます。院外の関係機関をはじめとする地域の皆さまに幅広くお目通しいただきたいと思います。

地域の皆様の声に耳を傾け、地域の総合病院としての役割を発揮できるよう、更なる連携の構築・強化を目指していきます。



【 介護・福祉施設との情報交換会 】

- 令和 5 年 12 月 13 日 養護老人ホームとの情報交換会
令和 6 年 1 月 17 日 救護施設との情報交換会
令和 6 年 2 月 9 日 有料老人ホームとの情報交換会
(看護部入退院支援委員会協同)
令和 6 年 2 月 28 日 特別養護老人ホームとの情報交換会

【 メディコラ学習会 】

- ・令和 5 年 9 月 20 日 (水) 17:30~19:00
テーマ 「柏崎総合医療センター 糖尿病外来の取り組みを知ろう！」
講師 柏崎総合医療センター
代謝内分泌内科 佐藤駿匡医師
糖尿病看護認定特定看護師 小林美和子看護師
内科外来 石丸善行看護師
参加者 130 名 (院内職員 28 名を含む) 38 事業者



- ・令和 6 年 3 月 12 日 (火) 17:30~19:00
テーマ 「身寄りなしの方への支援を考えよう
～柏崎総合医療センターの身寄りなし患者の実態から～」
講師 柏崎市福祉保健部 介護高齢課 寺尾怜史保健師
柏崎総合医療センター 大倉利江子医療ソーシャルワーカー
参加者 86 名 (院内職員 33 名を含む) 39 事業者



【訪問看護ステーション柏崎】

訪問看護は病気や障害を持った人が住み慣れた地域（居宅）で、その人らしい療養生活を実現できるように、多職種と連携を図って、安全・安心な看護の提供が求められています。国が推進している地域包括ケアシステムの構築において、訪問看護は在宅医療の中核を担うことを期待されています。

病院での治療を終え、住み慣れた地域（居宅）で療養生活を希望する等のニーズに応じた医療を提供するために、当訪問看護では、関係機関との連携を強化し、切れ目のない質の高いケアの提供に努めています。感染症対策も継続しながら、訪問看護サービスが安定的に供給できる体制を整備しています。冬季の地震では、療養者さんの安否確認を行い、通常の訪問業務を務めることができました。

訪問看護ステーションは看護師5名体制で業務を行い、開設以来 24 時間 365 日対応体制を維持しています。その中で、療養者さんの病院では見せないような笑顔を見せてくれるのは、在宅看護ならではのやりがいのひとつになっています。専門性を活かし、実際の在宅療養において医療と介護を結ぶ役割を果たしていけるようこれからも努めていきます。

➤ 令和 5（2023）年度訪問看護実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均人数
利用者実人数	68	67	65	66	63	65	63	63	66	61	61	67	64.5
介護保険対象者	56	58	58	58	58	58	57	57	59	55	55	62	57.6
医療保険対象者	12	9	7	8	5	7	6	6	7	6	6	5	7
利用者延べ人数	253	251	270	264	285	270	269	261	282	253	250	277	265.4

➤ 訪問看護加算届

- ・介護保険）緊急時訪問看護加算
特別管理加算
看護体制強化加
サービス提供体制強化加算
ターミナルケア加算
- ・医療保険）24 時間対応体制加算
特別管理加算
ターミナルケア療養費



➤ 実習受け入れ

- ・（独）国立病院機構新潟病院付属看護学校
- ・新潟県立看護大学
- ・新潟大学医学部
- ・東京医科大学医学部
- ・柏崎市消防署救命救急士

【柏崎総合医療センター居宅介護支援事業所】

令和5年度後期より、ケアマネジャー3名体制で柏崎地域のご利用者のケアプラン作成を担ってきました。柏崎市内総人口が減少傾向にある中、年々高齢化が進み、高齢者の単独世帯や高齢夫婦世帯数がともに増加が続いています。高齢者のいる世帯の割合は、50%を超え全国と比較して10ポイント高い状況です。

地域社会や家族関係も多様化している中、ご利用者が住み慣れた地域で安心して、いつまでも健やかな生活を続けられるよう、医療・介護・福祉などすべての面で連携や協力が必要となる事が考えられます。病院併設の居宅介護支援事業所という特色を最大限に活かし、関連職種、機関との連携や情報共有を図り、高齢者自身が自立支援を行えるように働きかけ、更なる質の高いケアプランの作成を目指し努めていきます。

◆令和5年度 居宅介護支援事業所実績

令和5年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
要支援1	6	7	6	6	6	6	5	3	4	5	5	5	64	5.3
要支援2	18	18	19	17	24	31	31	31	31	31	30	5	310	25.8
要介護1	21	19	19	20	21	23	23	27	29	28	31	29	290	24.2
要介護2	26	25	25	25	24	23	25	26	26	22	18	19	284	23.7
要介護3	9	10	9	8	7	8	9	11	11	12	13	15	122	10.2
要介護4	4	3	5	5	5	5	5	4	5	5	5	5	56	4.7
要介護5	2	2	2	3	4	3	3	3	3	2	2	2	31	2.6
利用者実績数	86	84	85	84	91	99	101	105	109	105	104	104	1157	96.4



【患者サポート室（医療相談室）】

患者サポート室の医療相談部門は医療ソーシャルワーカーと入退院支援看護師で構成しています。医療ソーシャルワーカー（社会福祉士、以下MSW）は前年度に比べ一名減の5名体制で業務を行いました。

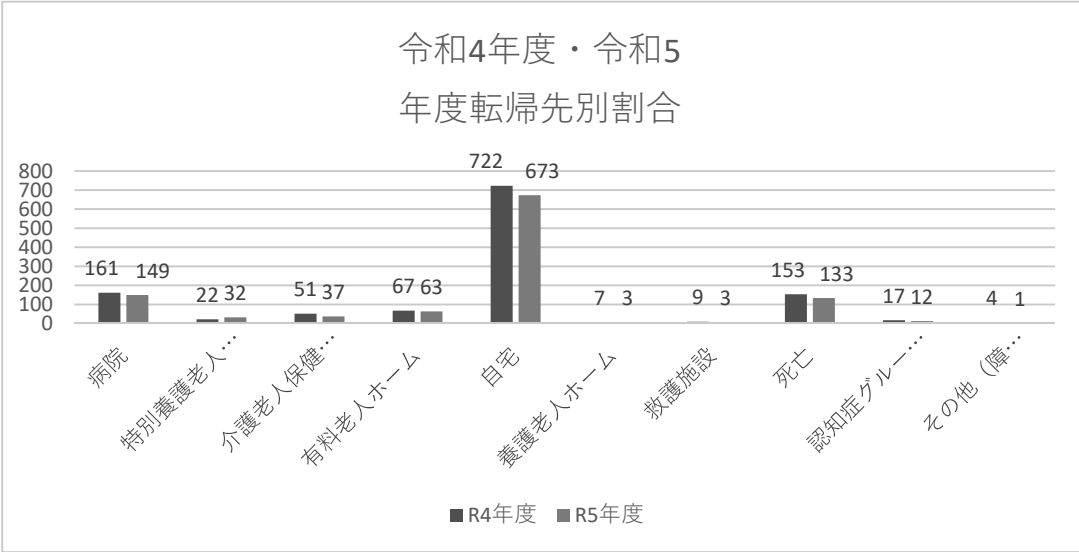
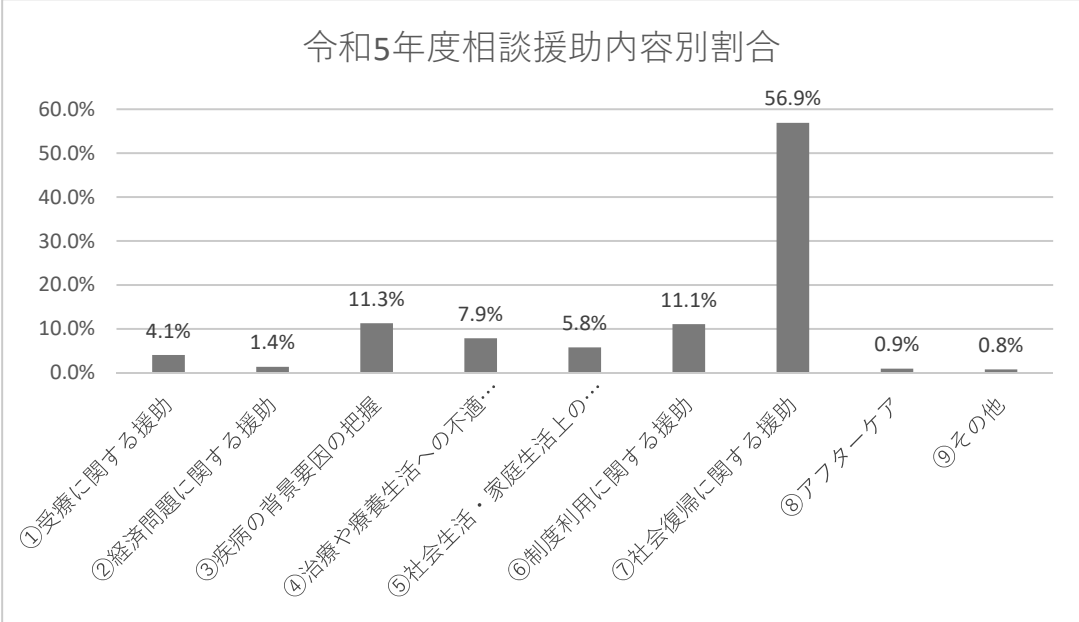
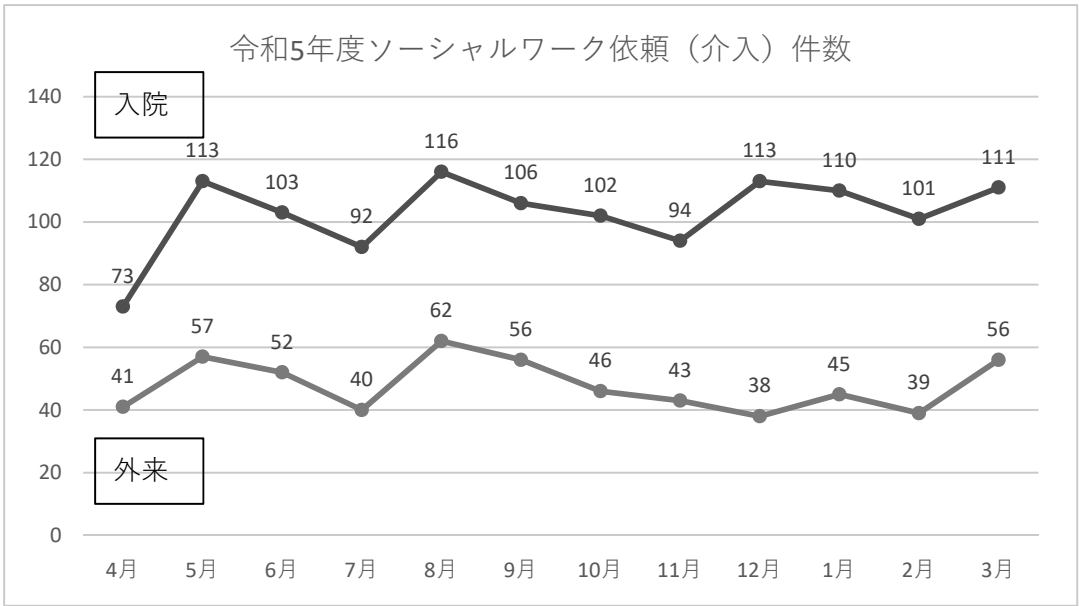
入院と外来患者合わせてソーシャルワーク依頼・相談は昨年度1,700件でしたが、令和5年度は1,800件近く対応しました。MSW1名につき、ひと月の中で対応する件数は前年度に比べ50件程度多い実績となりました。

外来の相談数は年々増えており、約600件（前年度比プラス150件）でした。この外来相談数は、当院外来部門や透析部門からの依頼・相談と地域の関係機関（ケアマネジャー・地域包括支援センター・行政機関・開業医の先生や他院のMSW等）からの相談・問い合わせを含んでいます。院内多部署、関係機関の相談窓口・連携窓口として認知され、その役割を担っています。入院患者のソーシャルワーク依頼・相談は約1,200件で、ケースのほとんどは「退院に関する援助」となっています。院内外多職種・多機関との連絡調整はもとより、院内多職種での退院支援カンファレンスや、地域包括支援センター・ケアマネジャーとの退院前カンファレンスなど、数多くのカンファレンスに参加・場の設定をし連携を深めました。細やかな連絡調整、対面でのカンファレンスなど質の高い支援に繋がっています。

また今年度はソーシャルワーク科として、1年を通じて身寄りなし研究を行いました。2020年～2022年の身寄りなし患者の実態把握を行い、身寄りなし患者・親族と疎遠になっている患者に多くの課題が潜在していることがわかりました。施設との意見交換会やメディコラ学習会で発表し、本テーマについて多くの方々と意見交換することができました。

これからも相談や支援の積み重ねや科としての取り組みを通じ、この地域連携やネットワークの構築・強化をし、病院や地域に貢献していきたいと思えます。





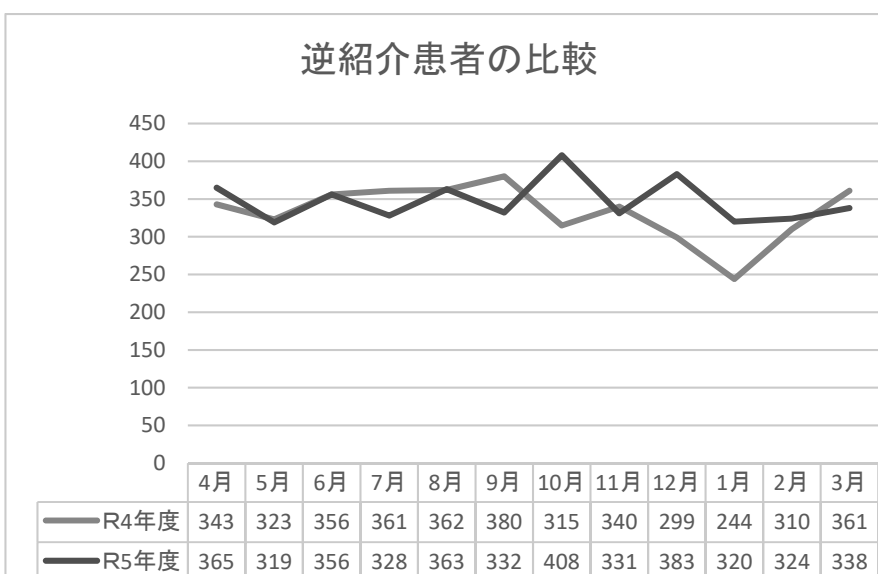
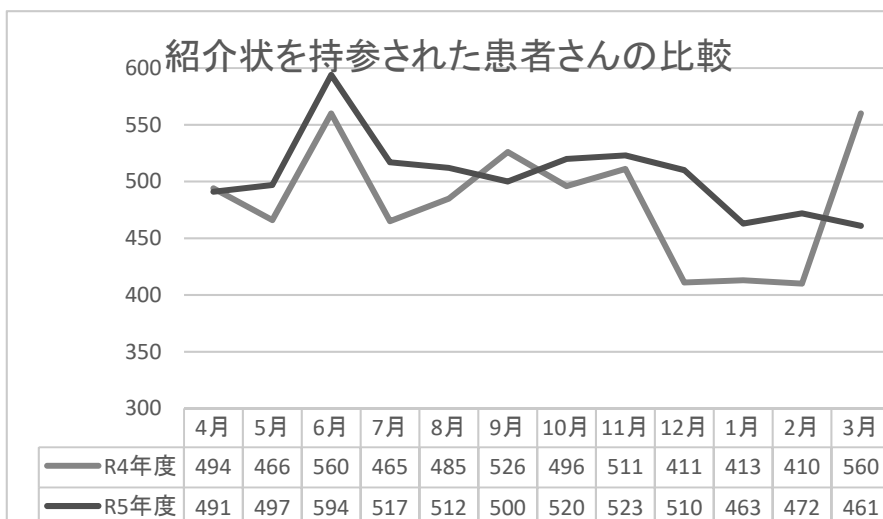
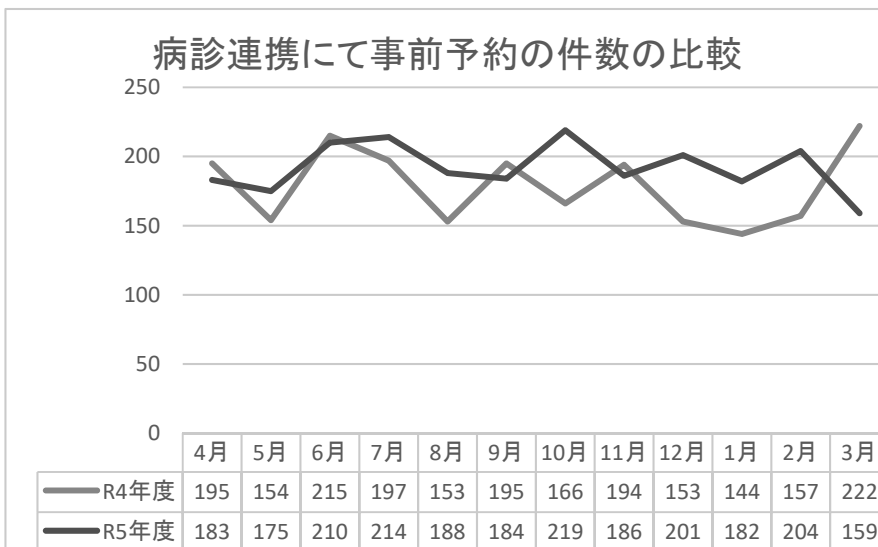
【病診連携室】

患者サポート室：病診連携は、事務員 2 名体制で業務を担っています。

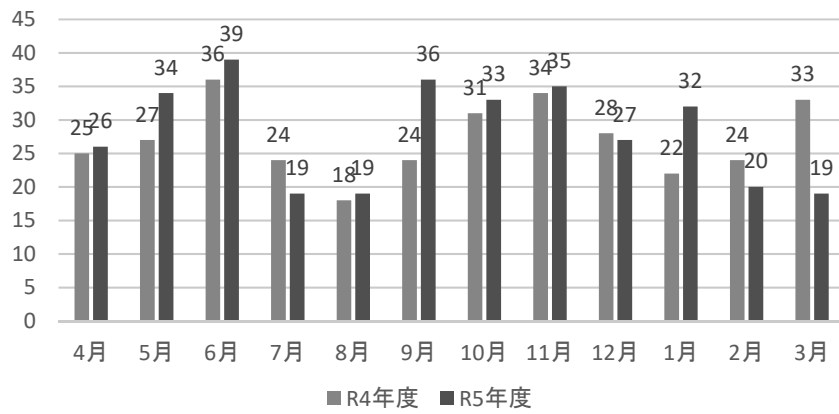
かかりつけ医の先生との連携を密にし、患者さんが安心して柏崎総合医療センターでの医療を受けていただけるよう、連絡窓口として円滑な業務の遂行に努めています。初診予約（紹介のみ）・診療における手続きの医事課への依頼・高額医療機器共同利用（CT・MRI など）検査依頼の中継ぎ業務・当院受診の患者さんの受診報告及び入院報告・他医療機関への受診、転院、セカンドオピニオン・PET-CT 検査の際の予約手続きなどの業務を行っております。

また、年 3 回「つながる+（プラス）」を発行し、関係医療機関へもお送りさせていただいています。

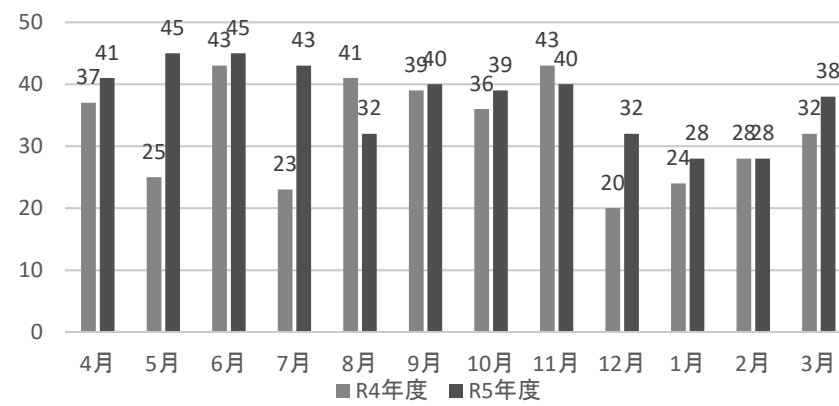
病診連携とは、文字通り「病院」と「地域の医療機関」が連携することです。患者さん及び各関係機関から信頼されるよう、そして病診連携のさらなる促進にスタッフ一同努めていきます。



CT 共同利用件数



MRI 共同利用件数

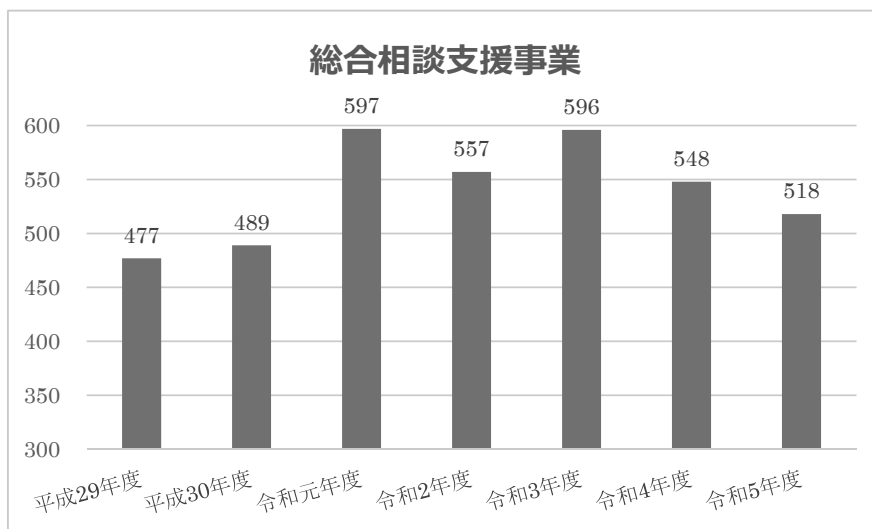
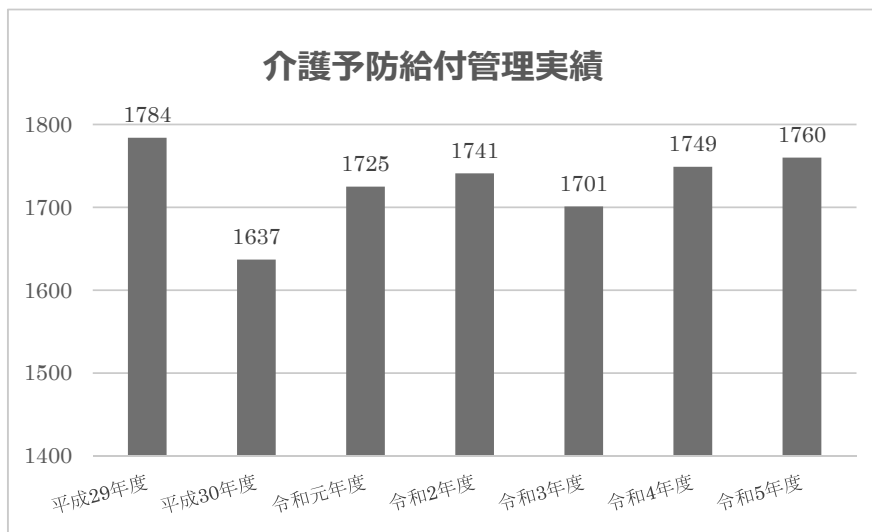


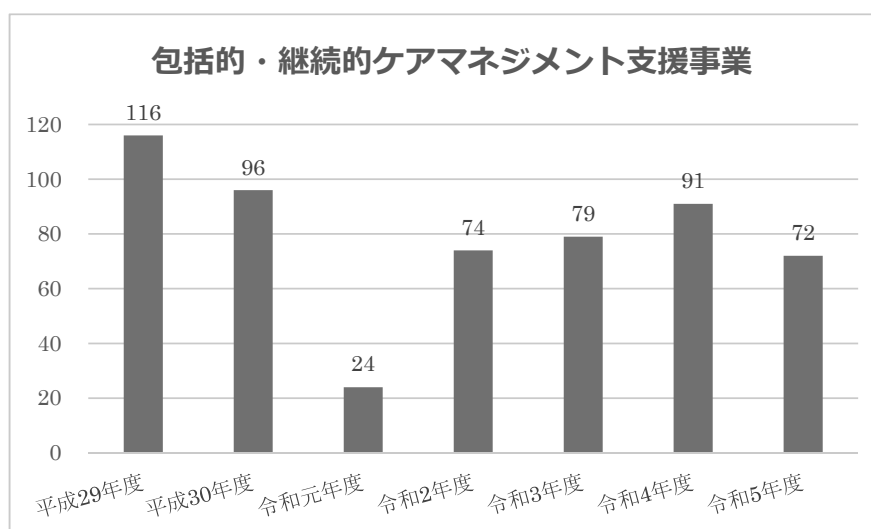
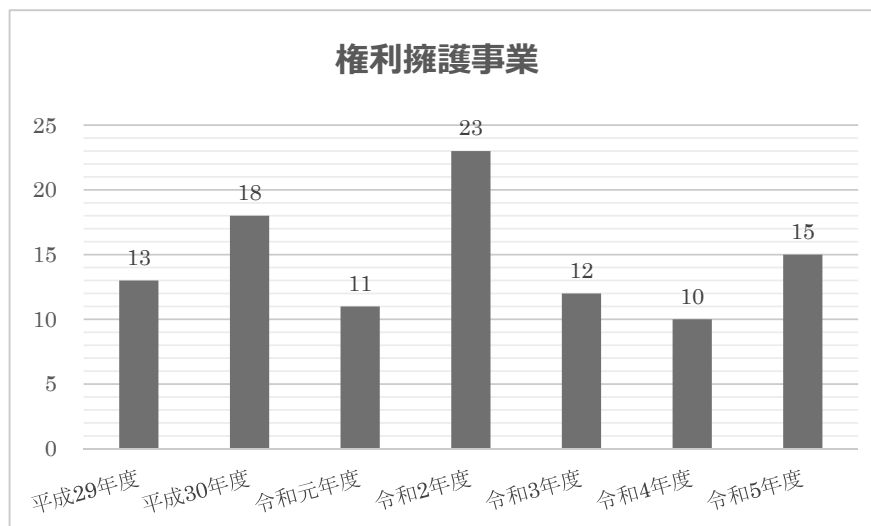
【柏崎市中地域包括支援センター】

地域包括支援センターは、平成18年の介護保険改正に伴い「地域包括ケア」の考え方を基本方針として、現在、市内7か所に設置されており、それぞれ柏崎市より各法人へ業務委託されています。

柏崎総合医療センターへ委託された「中地域包括支援センター」は、市内松美に事務所を構え、比角・田尻・北鯖石地区を担当しています。職員は、主任介護支援専門員・保健師（看護師）・社会福祉士の三職種と、介護予防プランナー、事務員が配置され、現在は6名体制で支援を行っています。

①総合相談支援 ②権利擁護 ③包括的・継続的ケアマネジメント ④介護予防ケアマネジメントといった4つの委託事業及び、法人として運営している「介護予防支援事業所」として担当地域内の要支援認定を受けた方々に対して、介護予防サービスのマネジメントも行っています。





<まとめ>

中地域包括支援センターが担当している比角・田尻・北鯖石の3地区を合わせた高齢者人口が6,000人を超える状況となっています。地域での活動を多く持ち、困りごとを抱えている高齢者への支援を通し、皆様と一緒にお互いが「支え合える関係」を根付かせ、花を咲かすことが出来るような活動を行いたいと考えております。